

請 願 文 書 表	
受理年月日 及び番号	令和3年11月5日 第29号
件 名	「グリホサート農薬」のっていない安心安全な 学校給食の提供を求める請願
請 願 者	<div style="background-color: black; width: 250px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div> <div style="background-color: black; width: 150px; height: 20px; margin-bottom: 5px; margin-left: 50px;"></div> <div style="background-color: black; width: 100px; height: 20px; margin-left: 100px;"></div>
紹介議員	沢 田 けいじ 小 林 れい子
請願の要旨	次 頁 の と お り
付託委員会	文 教 委 員 会

請願理由

農地単位面積あたりの農薬使用量が世界3位である日本は、農薬の規制が世界に比べて大きく遅れています。小麦のグリホサート農薬の残留基準値は中国0.2ppmに対し、日本は150倍の30ppmに緩く設定されています。グリホサート農薬は発がん性のみならず、生殖毒性、環境ホルモン作用、さらに人間の免疫の中心である腸内細菌を殺してしまうことで様々な疾患を誘発することが指摘されています。現在、世界40カ国以上でグリホサート農薬は使用禁止や規制が進んでいます。

日本で行われている農薬の安全審査は、農薬会社から国に提出される試験データを承認する方法で行われ、国が独自に試験を行い安全性を確認する作業はされていません。国が定めたグリホサート農薬の1日摂取許容量(1mg/kg=1ppm)は、農薬を構成しているうちの主成分から算出された値で、実際に使われる農薬から算出されていません。主成分は、草が枯れないほど毒性が低いものです。一方、同じく農薬を構成している補助剤は、主成分の100~1000倍の毒性が論文で指摘されているにもかかわらず、安全審査がされていません。補助剤は企業秘密とされて、何が含まれているか不明です。カーン大学セラリーニ教授の研究では、補助剤から危険なヒ素が検出されています。

また、近年の論文で判明した様々な毒性についても国は安全審査をしていません。2019年ワシントン州立大学の研究では、親がグリホサート農薬を摂取すると、全く摂取していない孫・ひ孫の世代で生殖系などに異常がでています。2017年ロンドン大学の研究では、1日摂取許容量を遥かに下回る低濃度(0.004mg/kg=0.004ppm)の長期摂取で脂肪肝になると指摘されています。しかし、国はこれらの安全審査をしていません。EUでは厳しく規制されている環境ホルモン作用についても、調べられていません。

文京区の学校給食のパンや麺では、グリホサート農薬の残留が疑われる輸入小麦を使用しています。小学生の場合、1回で摂取する量は微量でも週1回のペースで6年間摂取することは、低濃度の長期摂取となります。農薬評価書によると、グリホサート農薬の体外への排出には1週間かかります。週1回のペースでグリホサート農薬を摂取すると、子どもの体内からグリホサート農薬が消えることはありません。農薬で一番影響を受けるのは、胎児と子どもです。国際産婦人科連合(FIGO)は2019年に「グリホサートは全世界で、段階的に使用をやめるべき」と勧告を出しました。子どもたちの命と健康を守ることを第一の判断基準とし、予防原則に基づき、危険性が疑われるものは学校給食に使用しないでください。

以上のような観点から文京区に対して下記のことを働きかけて頂きたいと、お願いいたします。

請願事項

- 1 国は学校給食でのグリホサートの残留農薬測定をしていないので、文の京の学校給食として、子どもの安全と保護者の安心のため、輸入小麦を使用したパンや麺のグリホサート残留農薬測定をしてください。
- 2 毒性の高い補助剤の安全審査がされておらず、世界の多くの国で禁止や規制が進んでいるグリホサート農薬の残留が懸念される輸入小麦を使用したパンや麺は、前項の残留農薬測定により安全性が確認されるまで、予防原則に基づいて文京区の学校給食での使用をやめ、米飯または安心安全な食材へ変更してください。